

図書館だより

第 5 号

昭和 53 年 6 月 30 日

愛媛大学附属図書館

目

- 図書館長室にて…………… 1
- 医学部図書館の開設に際して…………… 2
- 医学部図書館新館案内…………… 3
- 参考図書コーナーのことなど…………… 4

次

- 夏季休業中の図書館利用について…………… 5
- 図書館委員会委員…………… 6
- 外国雑誌目録の編集について…………… 6
- 編集後記…………… 6

図書館長室にて

図書館長 三 崎 敬 之

思いもかけず図書館長室に座るようになってもう3か月が過ぎた。研究室が図書館内にあるので10数年間図書館の建物には入りつづけており、また、しばしば図書を利用していたのではあったが、館長室に座るようになってみると、改めて図書館とは何であるのか、愛媛大学附属図書館とは大学にとって何であるのかを考えさせられることになった。ある人は全学の教官が研究や学生のために購入する書物を受入れて手続きを行い、教官や学生が利用しやすいように整理し、あまり利用しない書物は書庫に保存しておくのが図書館の役目であると考え、ある人は所蔵の書物を読む場所、ノートを書き場所、レポートを書く場所であると思い、また、ある人は研究に必要な情報を教官や学生に敏速に提供するのが図書館の役目であると考え。一つ一つがもっともな考え方であり、図書館が一種のサービス機関である以上、どれもゆるがせにはできない。

しかし、どれも一つとして充分に行われているとはいえないのが現実である。52年度だけでも本館で約2万5,000冊、農学部と医学部の分を合せれば約3万5,000冊にも及ぶ新購入書をさらに敏速に整理する方法を考えなければならぬ。余裕を失いつつある書庫についても考えなければならない。単に書物を読む場所だけではなく、視聴覚室も欲しいし、貴重図書室も欲しい。また、学生の

読書相談に当たる係員も欲しい。蒲池前館長時代から始まった新入生ガイダンスをさらにきめ細かなものにしたい。研究に必要な情報を敏速に提供するためにはさまざまな機械化が必要である。

「図書館は大学の学術研究の中心でなければならない」響きのよい言葉ではあるが、図書館が本当にそうであるためには教官や学生の強い支援が必要であり、図書館員のさらに一層の努力が必要であろう。懸案であった開館時間の延長は近い将来に実現しそうであり、また、今春新築の建物に移った医学部図書室は今秋には分館になりそうである。理想像を描きながら徐々に少しずつ実現してゆきたい。教官や学生は図書館を盲腸視しないでどしどし御意見を述べていただきたい。

終りに学生諸君に、ことに教養部の諸君に申したい。真の大学生であるための自律的勉強に図書館の蔵書を大いに活用してほしい。試験のためのノート写しやレポート書きだけに図書館を利用するのでは、冷暖房付き、明るい照明という設備がもたないではありませんか。自分の目的にかなった書物を苦勞して見つけだし、熟読して学生にふさわしい知性と教養を身につける場所として図書館を充分に利用してほしい。

(法文学部教授・西洋史学)

(題字・芦田学長 背景・石井 前教育学部教授)

医学部図書館の開設に際して

医学部長 須田正己

つい先頃まで雪映えを見せていた石鎚山系にも青磁の春光が渡りはじめた頃、待望の医学部図書館が開設された。情報、調査活動の拠点が誕生したことと、情緒的には共通した暗黙の了解を得る施設として学部図書館の誕生はある種の安定感を覚える。

自然科学技術系の図書館は、ある手段によって研究や開発の目的達成のため、特定情報を掴む場である。医学の場合も勿論こうした側面を内包しているが、それとは別の顔がある。端的に言えば、病気にかかった個別的な人間が生き残るために多重多層な、しかもそれぞれの生涯に合った合目的な方策を探し出すための場であって、技術的手段だけでなく人間の深層から湧き出る生ぐさい、また割り切れない情報の堆積場なのである。臨床医学や社会学の分野にしても人前ではひろげられぬ文書や図版もあるし、公報し得ない報告もあり、実験医学の方面では動物愛護協会からはお叱りを受ける疾患モデルの研究報告が大部分を占めている。医学図書館は、それゆえいわゆる自然科学図書館と同席するわけにはまいらない立場におかれていると思う。つまり、医学図書館は生存する手段はないかについての情報を得るだけでなく、生存する目的とは何かを考えさせられる情報が提供される場でもある。

新しい図書閲覧室に足を運ぶと、2階の明るい閲覧室で学生諸君がかたわらに文献と参考書を積み上げ、生ぐさい臨床鑑別診断のレポートを書くのに熱中している。たずねると6年生である。筑波法案で半年遅れの異常入試で入学し、おまけに河川敷に鉄骨しか立っていなかった頃から一緒になってやってきた学生諸君が、我が家でゆっくり医学レポートを書くまでに育ったか、と胸にこたえるものがある。そのすぐ隣りでは、若い教官がこの春フランス大使館を介して寄贈していただいた医学図書を調べている。階下では、係員が未整理図書の分別にいそがしい。

創設時に、図書3万冊という条件が与えられ、地元の設置協力会から御相談を受けたおり、医学専門図書の寿命は3年位しかない程この方面の進歩は激しいので、あわてて員数だけを揃える必要はなく、専門外国雑誌のバックナンバーを過去5

年の範囲で(これも集めだしたらきりがないので)教官のアンケート調査によって重点的に購入することにした。一方学生の基本図書は、各国間の辞書や百科事典だらけの原案では外国語大学や文科方面をむいたものだったので、大巾に修正して歴史、文学、美術、思想などの領野で由緒ある全集を選び出し、他方医学との接点をなす生物学、心理学、看護学、医用工学などの良書を買入れたが、これらのなかで書物のいたみ方から推察すると「司馬遼太郎全集」がよく読まれているらしい。松山の生んだ英才、秋山兄弟の生涯を生き生きと書かれている「坂の上の雲」や、また愛媛にはシーボルトが開いた長崎出島の「鳴滝塾」門下の逸才二宮敬作(西字和郡保内町)、あるいは高野長英(宇和島藩洋学の教師)、シーボルトの娘に蘭学を教えた緒方洪庵「適塾」門下の村田臧六(大村益次郎)、孫娘をめとり大阪医学校教官であった三瀬周三(大洲市出身)など近代医学の先覚者が県下から出ているが、これらの人々の綾なす生涯を画き出した「花神」もこの全集にある。

専門図書や外国雑誌の冊数もその後増加して、3万冊を越えている。それでも教官が他大学の図書館に請求するゼロックス文献は年間2,000件以上であり、各講座が分担する図書購入費は年間50万円にもなる。国立医学部長会議でも、購入費基本金の援助を要請しているがなかなか実現しない。書籍の置き場は年々狭められるので、近い将来マイクロ化とその解読化が現在より格段と自動化されることを待望すると共に、医学の各分野での歴史的業績や、古典的名著は原寸で復刻することが望ましい。今後は省力化、重点化にむかって受け身の管理態勢から、図書情報活動の面でより積極的な技術開発への意欲が必要となるであろう。愛媛大学医学部は戦艦大和を再建しようとは思わない。私共はミサイル搭載の機動性のある軽巡でありたい。わが医学図書館もこの方針がよいと思う。

医学は病める患者から学び、患者は医の学客であるので臨床情報は臨床体験と共に重要であるが、人体という制約があるため、疾患モデル動物をつくり正常動物との比較によって疾患の深層に近づき、得られた知見を再び患者さんに還元しよ

うとするのが実験医学の立場である。臨床医学と実験医学は車の両輪であって、その守備範囲は精神界から微粒子の世界までである。従って情報を追うだけではこれもまたきりが無い。近頃次のようなことを考える。

「1を聞いて10を知るは、俊才世俗に稀なり、

10を聞いて1を悟るは、英才古来に稀なり」

最後に医学部の教官は過酷な条件で日夜医療と医学に従事しているが、緒方洪庵の座右の銘「一人の為に生活して己の為に生活せざるを医の本体とす」は今日もなおそのまま私共学部の心としたい。
(医学部教授・生化学第一)

医学部図書館新館案内

医学部研究棟の一部を利用して、図書館業務を行ってきましたが、今年の3月に、念願の医学部図書館が竣工しました。移転も終り4月13日から開館いたしました。



建物の概略については、「図書館だより4号」でお知らせしましたので、今回は新館の利用の仕方も含めまして、資料の配置及び各室(コーナー)の案内をいたします。

1階閲覧室(閲覧座席数 24席)

この閲覧室は、自由に入室することができ、図書館で借り出した図書、館内閲覧手続きをした図書、利用者自身の所持する図書を読むことができます。

新聞閲覧コーナー(1階)

朝日新聞、愛媛新聞、毎日新聞、The Mainichi



Daily Newsの4種類を掲示しています。

前日までの分は、二階図書運用係事務室に申し出て下さい。

目録コーナー(2階)

分類目録(日本十進分類法新訂7版による分類番号順、和洋別)

書名目録(書名のABC順、和洋別)

著者名目録(著者名のABC順、和洋別)の3種類のカード目録が備え付けてあります。

なお、学術雑誌については、「愛媛大学医学部雑誌目録 1976年版」等を利用して下さい。

ロッカー・コーナー(2階)

2階閲覧室を利用する際は、カバン・袋物類等は、ロッカーに入れ、学習に必要な図書、筆記用具類のみ持参のうえ入室して下さい。

2階閲覧室(閲覧座席数 84席)

この閲覧室には、カレント雑誌コーナー、2次資料コーナー、参考図書コーナーを設けてあります。



カレント雑誌コーナー

図書館備付雑誌を、製本するまでの期間ABC順に雑誌架に配架してあります。

二次資料コーナー

文献探索の道具として、医学中央雑誌(抄録誌)、Index Medicus(索引誌)等を配架してあります。これらにより検索した文献が、学内にない場合は、学外へあっせんいたしますから、所定の申し込み用紙に記入して、図書運用係へ申し込んで下さい。

参考図書コーナー

辞書、事典、書目、年鑑、統計、地図等の参考図書を配架してあります。

書庫(3層)

出入りは、2階閲覧室からできます。

1層 未整理和・洋雑誌

2層 単行本(洋書)、和雑誌

3層 単行本(和書)、洋雑誌

単行本は、日本十進分類法新訂7版の分類番号順。雑誌は、誌名のABC順に配架しています。

以上が資料の配置及び各室の案内です。利用者は、これらの資料に自由に接して座席で閲覧するか、カウンターで手続きをして借り出すことができます。

ただし、貴重図書、特殊図書、参考図書、未製本雑誌は原則として館外貸出はしません。

なお、利用について不明な点は、その都度館員にお尋ね下さい。皆様の利用をお待ちしております。

参考図書コーナーのことなど

参考図書とは、通読するというより、利用目的を達するためには一部を参照すればよいように編集された図書を指します。「調べるための本」です。具体的には、辞書、事典、便覧、年表、書誌、目録等です。本館では、参考図書コーナーに別置しています。

「知識には二種類ある。ひとつはある主題について自分が知っているという場合の知識であり、もうひとつは、その主題についての情報がどこにあるかを知っている、という場合の知識である」とは、通称『ジョンソンの辞典』で知られるジョンソン博士の言葉です。後者は、参考図書についての知識の的確な表現でもあります。現在、情報整理学などが時代の趨勢とともに盛んになりましたが、知識を修得することに比べて知識の獲得のしかたを学ぶことは、まだまだの観があります。日本では博覧強記が重要視された江戸時代までの歴史があるからでしょうか。

明治の経済学者で文明史家の鼎軒田口卯吉は、日本百科辞典を編集したいとの宿望を持っていました。その理由は、「余輩は英国百科辞典を座右に置き、凡そ事の調査すべきものあるに当りて、披きて之を閲するに一として備はらざるはなきなり。余輩は常に其の至便なるに感じ、且英国に於て有名なる学者の輩出するも之に因りて容易に知識を得るに基くことを思へり」というものです。辞書や事典がなく、そのつど原資料に当たったりし

て、知識を得なければならぬ時間と繁雑さを想像すれば、田口の云っていることの重要性はすぐに理解されると思います。いかにも『日本開化小史』をあらわし、自由主義経済論者で「日本のアダム・スミス」といわれた開明的人物らしい言です。先出のジョンソン博士は、辞典編纂などは労力と時間をかければ高い才能を必要としなくても出来る仕事と云っています。これは博士の自嘲だけでなく、時代の意識がその程度だったとも思われます。(辞典に着手するのは、1746年)日本では、書誌づくりが諸外国に比べて、まだ専門的仕事と評価されていない現状のように、参考図書の価値は正当に評価されていない気がします。しかし、明治の一民間人・『東京経済雑誌』主宰の田口は、宿望実現のため、『泰西政事類典』を翻訳し、『大日本人辞典』『社会事彙』を出版し、史籍部門が不完全だとの判断から『群書類従』を縮刷発行したり、『国史大系』を編集したりします。いかにも知識欲の旺盛な明治らしい情熱で、明治34年の頃のことです。五十音順の排列は、これらを編集した田口によって確立されました。

このように辞書・事典の編集がすすみかけた頃から少しあとの頃を「私は半生を学校へ通うよりはもっと熱心に図書館へ通った男である」と回顧している菊地寛は、図書館について次のように書いています。上京してすぐに上野図書館へ行き「私は東京の何物にも感心しなかったが、図書館だ

けには十分驚きまた十分満足し、これさえあればと思った」(『半自叙伝』)。東京高等師範学校へ入学した明治41年のことです。日本文庫協会が日本図書館協会と改称されるのが同年のことで、図書館の創立期のことです。読書家としても菊地は高名ですが、図書が増え大系が複雑化し、学問が細分化した現在、「これさえ(図書館)あれば」とは簡単にいえなくなりました。同じ図書館を利用するにしても、より効率良く利用することが必要になってきています。カード目録の検索に慣れること、文献を調べる方法を修得すること(佃実夫『新訂増補版文献探索学入門』思想の科学社、長沢雅男『レファレンス・ブッカーなにを・どう

して求めるか』日本図書館協会、等々)そして、便宜思想を背後に持って編集された参考図書の整備が役に立つのではないかと思います。

事典の参考文献がまだ不十分だったり、参考図書それぞれの対象領域を連関づける作業が十分でなかったりしますが、参考図書は次々と使いやすいように編集され刊行されています。

本館では、参考図書の整備拡充を計画しています。利用者の意見を反映させたいので、希望図書とか意見がありましたら、希望図書請求用紙に記すとか館員に意見を申し出てください。参考にしたいと思います。

(参考調査係 大森)

夏季休業中の図書館利用について

近年上記期間中(7月11日～9月10日)の図書館利用が多くなっています。

この理由については館内環境の改善、冷房設備の完備、就職関係等のためによるものと思われませんが、また一方では「夏休み中図書館は開館しているのか」とか「図書の貸出は出来るのか」といったことを耳にします。

このことについては、掲示、図書館だよりでお知らせしておりますがまだよく知らない方、特に本年入学し夏休み利用について経験のない方々のために役立つ夏休み中の利用方法を、くわしく述べてみたいと思います。

1. 本学図書館の利用について

a. 夏季休業中の長期貸出制度

毎年夏季休業前に、郷里へ帰省する方、またはこの期間来館できない方のため、特別長期貸出制度を設け便宜を図っております。この利用状況を過去4か年の統計によってみますと次のとおりです。

年次	利用冊数	利用人員
49年度	2,677冊	1,167人
50年度	3,241冊	1,492人
51年度	3,023冊	1,325人
52年度	3,302冊	1,428人

本年も例年どおり下記によって、夏季長期貸出をいたします。特に今回は貸出冊数を多くし下記のとおりといたします。なおこれ以上の貸出しを希望される方は閲覧係までお申し出下さい。必要

に応じて考慮いたします。申込手続きは平常の貸出手続きと同じです。

貸出取扱期間	開架図書	指定図書	書庫内図書
7月1日から 7月8日まで	1人 7冊以内	1人 3冊以内	1人 5冊以内
返納期限	9月16日までに返納すること		

b. 夏季休業中の開館について

夏休み中の開館は下記のとおりです。

中央図書館	平日	9時から17時まで (ただし、開架室のみ12時から13時まで1時間閉室いたします。)
	土曜日	9時から12時30分まで
農学部分館	平日	9時から18時まで
	土曜日	9時から13時30分まで
医学部図書館	平日	9時から18時まで
	土曜日	9時から15時まで

c. 夏季休業中の図書の貸出

夏休み中も平常どおり貸出しておりますから大いにご利用下さい。ことにこの期間中、書庫内図書の利用をおすすめします。

d. 文献複写あっせんについて

平常どおり申し込みを受付けしております。卒論等で必要な文献を本学以外に求める場合は、他大学等の事情により文献の到着が多少おくれることもありますから、早目に参考調査係までお申し出下さい。

e. 冷房について

館内は期間中冷房し快適な読書環境を維持する

よう努めております。

昨年と同期間中の入館者数は次のとおりです。

区 分	入館者数	合 計
開 架 室	21,658人	50,736人
一 般 閱 覧 室	29,078人	

2. 他大学図書館の利用について

夏季休業中郷里の大学図書館利用を希望される方、または調査研究のため他の図書館を利用したい方のために、図書館相互利用の方法により、希望する図書館で所蔵している図書資料を閲覧、借受、または文献のコピーの提供を受けることが出来ます。(本学図書館においても、近年他大学の学生による利用は次第に多くなり、複写等の要求にも応じております。)

その場合、学生証(身分証明書)と本学図書館長の紹介状が必要です。

本学図書館長の紹介状の交付手続きは、参考調査係で取り扱いをしておりますから、ご希望の方はご遠慮なくお申し出下さい。

他大学図書館を利用するときの心得として利用する図書館の利用規程(規則)を必ず守っていただくことと、系の指示に従って下さい。

特に借受けた図書の返却期限等決められたことは厳守して下さい。

また、印鑑を必要とする場合もありますからこの点もご留意下さい。

以上夏休み中の図書館利用について、知っていただきたいことを挙げてみましたが、本学の図書館、全国の図書館を大いに利用して有意義な夏休みをお過ごし下さい。

図 書 館 委 員 会 委 員

図書館長	三 崎 敬 之	
法文学部	星 島 一 夫	(S.55. 3.31)
〃	小 泉 道	(S.54. 3.31)
教育学部	柳 田 征 司	(S.54. 3.31)
〃	白 方 勝	(S.55. 3.31)
理学部	菅 谷 礼 爾	(S.55. 3.31)
〃	堀 内 裕 治	(S.54. 3.31)
医学部	小 林 讓	(S.55. 3.31)
〃	反 町 勝	(S.54. 3.31)
工学部	樋 口 明 生	(S.54. 3.31)
〃	安 倍 齊	(S.55. 3.31)
農学部	稲 岡 恵	(S.55. 3.31)
〃	徳 増 智	(S.53.10.31)
教養部	山 本 篤 司	(S.54. 3.31)
〃	横 田 俊 昭	(S.55. 3.31)
事務局長	高 岡 盛 男	

※ () 内は任期

望があり、とりわけ外国雑誌の所蔵・所在目録の更新・充実には特に強い要望が出ております。この要望に応えるため、本年度は外国雑誌目録の完成を期することになりました。

つきましては、学部研究室の格別のご協力をお願い申し上げます。

なお、城北地区の学部研究室へは、すでにお知らせいたしました予定で、外国雑誌の照合調査に伺いますのでよろしくごお願い申し上げます。

編 集 後 記

館長新旧交替による初めての刊行として、今春完成した医学図書館の紹介、刊行時期に併せて夏休み中の図書館利用、新館長から研修の意味も含めて館員の評論、意見、感想等も出してもらいたいとの要望があって本号の編集方針としました。また医学部図書館完成に関連して医学部長から特別寄稿があり、本号の特色が見られることになりました。厚くお礼を申し上げる次第です。(編集子)

外国雑誌目録の編集について

図書館では「愛媛大学雑誌目録 和文編」の完成に引続き、「愛媛大学雑誌目録 欧文編」の作準を進めております。

雑誌目録の更新については、学内各方面から要

愛媛大学附属図書館報「図書館だより」

第 5 号 昭和53年 6 月 30 日発行

発 行 愛 媛 大 学 附 属 図 書 館

松 山 市 文 京 町 3 番

Tel 0899-24-7111